

台東リサイクルネットワークは、持続可能な社会の一員として考え行動することを目的に設立され、これまでのライフスタイルの見直し、使い捨て生活の見直しなどによる資源の有効利用やごみの削減の啓発活動を行ってきました。

今回はプラスチックによる海洋汚染について考えてみたいと思います。

### プラスチックごみによる海洋汚染・「マイクロプラスチック」ってなに？

最近よく耳にする言葉ではないでしょうか。川や海、湖などに漂流・堆積している5mm以下の小さな破片や粒のプラスチックを指します。海洋投棄や漂流物による海岸のごみに関しては、日本はこれまで被害国と考えがちでした。しかし、環境NGO JEAN (Japan Environmental Action Network) の調査によると漂流物は5%程度に過ぎず、殆どは国内から排出されているものだそうです。

### 海の汚染の原因と対策

世界では年間3億トンのプラスチックが生産されていて、石油産出量の8%がプラスチックに使われていることになります。日本では一人年間75kgのプラスチックを消費しています。そのうち容器包装材は約4割。ペットボトル100本、レジ袋300枚、その他商品のパッケージ、お弁当の容器等々、1世帯で1日数百グラムのプラスチックごみを出すとされています。

ごみ収集されずに、路上や地面に落ちているプラスチックは雨で洗い流されます。ポリエチレンやポリプロピレンなど水より軽いプラスチックは浮いて川を流れて海に運ばれます。街でポイ捨てされたものが海ごみの主な発生源です。風に飛ばされたレジ袋やペットボトルが落ちているところをよく見かけますね。

海に運ばれたプラスチックは紫外線や波の力で壊され、どんどん小さくなっていきます。海岸に打ち上げられたものも砂の上で紫外線と熱によりどんどん小片化・微細化が進みます。微細化してもプラスチックであることに変わりありません。マイクロプラスチックの起源はペットやレジ袋だけではありません。化学繊維や洗顔剤に入っているマイクロビーズ、食器洗いのメラミンフォームスポンジなども汚染の一因です。

海の汚染を防止するには、社会のシステムとして使い捨てプラスチックの使用を減らすことが一番有効ですが、すでにごみとなっているものを拾う活動も大切です。小さくなったプラスチックを拾うことは不可能ですが、海岸や河川敷にあるうちに拾うと効果が大きいです。

### 海の汚染の影響

世界の海は既にプラスチックのスープとなっていて、海洋生物(海鳥・魚貝・ウミガメ・クジラなど)が誤飲・摂食をしています。10年前には200種程度でしたが現在は600種以上が摂食し、種の存続などの物理的なダメージが報告されています。また、海洋プラスチックは有害化学物質を生態系に運んできます。プラスチックが海を漂う汚染物質を吸着して有害化し、そのプラスチックを摂食することで生物の体内で変化が起こる可能性があります。海洋生物の汚染は食物連鎖を通して当然人間への影響も出てきます。人が魚介類を通してプラスチックを食べてもプラスチック自体は排出されますが、化学物質は人体に移行/蓄積する可能性があります。更に海底に堆積したプラスチックはヘドロ化の原因となり海洋の酸性化を招きます。豊かな海の生物多様性を阻害し、海洋生物を殺すものとなります。

### 海の汚染の防止策・解決策

第一にあげられるのは汚染の素である**プラスチックの使用量を減らす**ことです。リサイクルはしていますが、大量に使えばリサイクルし残されたものも大量になります。荒川流域の河岸環境保全NGOは2012年だけでも約30000本のペットボトルを河原から回収しています。

日本ではプラスチックごみの半分以上が燃やされています。エネルギーをつかって原油をプラスチックにして、それを燃やしているのは持続可能な循環型社会にはなりません。燃やすものを出来るだけ減らすことよりも、使い捨て型のライフスタイルを見直すことこそ重要であり、プラスチックの使用量を減らす早道だと考えます。わたしたちは、商品を買うときには使い終わって廃棄する時のことを考え、すぐにごみになるものを買わない・貰わないなどの行動をする事が大切です。

地球上の資源に限りがあり、今の世代だけで使い尽くしてしまっはならないことを自覚した上での行動が求められています。一旦海に入れば汚染に繋がりますから予防(使用量を減らす)が一番効果的な行動です。

## TR ネット、環境配慮の取り組み

### ▶雑古紙トイレットペーパー「ひまわりの種」の協働購入

雑古紙トイレットペーパー「ひまわりの種」は、原料として区内で回収された雑古紙も使われています。森林資源保全、紙の無駄をなくす取組です。資源回収に出すだけでなく、リサイクル資源を利用した再生品を購入することでリサイクルが成り立ちます。資源回収団体の皆様にも購入していただいています。また、環境ふれあい館ひまわり2階リサイクル活動室にても販売しています。使ってください。

2017年実績 29,305 ロール



### ▶再利用講座（初心者向け講座）・出前講座・自主活動実施

台東区立環境ふれあい館ひまわり（蔵前4-14-6）2階リサイクル活動室の運営の中で再利用講座・出前講座を開催。春休み・夏休みには子ども向けにも開催。生活の中からできるだけごみを出さない、ごみにする前にもう一工夫する事を考える講座です（年間130講座）。

また、自主活動の講座も開催、年間延べ1700名の方が活動に参加しています。皆様も一緒にいかがですか。



### ▶ごみ削減の啓発

#### リユース食器の貸出、フリーマーケット開催

イベントの模擬店は誰でも楽しみですが、使用される容器や箸は使い捨てされるものがほとんど。地球上には使い捨てできるほどの資源やエネルギーは残されていません。TR ネットが直接関わるイベントでは洗って再利用できるリユース食器を使っています。リユース食器は貸出も行います。是非ご利用ください。こども用品のみのフリーマーケットを2017年は3回実施しました。屋内開催なので天候に左右されることがないためとても人気が高いです。



### ▶親子自然体験「わんぱくエコフレンズ」の開催

次世代の子どもたちに、有機農業体験、緑地の保全活動、都会の緑地での生き物の観察などを通して土や植物、生き物に触れる体験を提供しています。地球環境が大きく変化している今、自分に何ができるかを当事者として考え行動に移していく事が重要です。体験の中からそんな思いが生まれることを期待して開催しています。



### ▶毛糸編みボランティアで膝掛けのプレゼント

使われなくなったり、残っている毛糸でモチーフを編み、40枚つなぎ合わせて膝掛けをつくります。区内の老人ホームなどに寄付をして今年は20年目になりました。昨年は三輪特別養護老人ホームに贈りました。モチーフ編みを手伝ってくださる方を随時募集しています。

皆さんもTR ネットと一緒に、持続可能な社会を目指しましょう。  
問い合わせ：TR ネット（台東リサイクルネットワーク）電話：03-3866-8185